

第 45 号

2015年10月発行

佐賀大学医学部

〒849-8501

佐賀市鍋島5丁目1番1号

http://www.saga-med.ac.jp/

新聞編集委員会

印刷/株昭和堂

新任教授 挨拶



母子看護学講座
教授
鈴木智恵子

このたび平成27年7月1日付で、佐賀大学医学部看護学科・母子看護学講座・小児看護学領域教授を拝命いたしました鈴木智恵子と申します。母子看護学・小児看護学の教育、研究を通して小児保健の向上に努めて参る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

うちで解決すること、看護ケアに限界をもたないことにつながったのではないかと思います。

就職先は防衛医科大学校附属病院に決まっていたのですが、卒業の直前に祖母が脳内出血で倒れ、やむなく地元の福岡に戻ってまいりました。就職試験がごも終わっている中、求人情報で探している中、求人情報で探している中、福岡市立こども病院・感染症センターに非常勤で勤めながら、福岡市公務員試験を待ち、翌年に無事就職することが出来ました。小児外科・整形外科病棟では、親と離れて入院生活を送る子ども達のたくましさや辛さを直に見ながら、どのようなケアが大切かを学ぶことが出来ました。最初は受け持った子どものことが出来ません。神経芽細胞腫の子どもさんでした。新人の私が立案する看護

計画が間に合わず、余命1か月を見通したケアを提供できなかったという想いが今でも残っています。腹滿緊張解除術後での抱っこは安静が保てないはずと考えると、抱っこをしたのはわずか数回でした。今なら親御さんとの時間を充分に取り、時間が許す限り抱っこしていただけるケアを提供できたと後悔しています。次の異動先NICUでは、九州各地から入院して来る子ども達を通して、病気の子どもを抜きにした家族が形成されてしまうケースや、今では考えられない手術拒否による医療不グレクトのケースなど、看護に必要な倫理を考える機会も多々ありました。将来、長期入院せざるを得ない子ども達を前に、安心し

て退院できる支援に関わりたいと思いました。

【大学院への進学】

住まいを佐賀に移し、勤務した皮膚科外来で小児の看護ケアを実践している中、自分自身の看護の未充足な部分が気になり、佐賀県看護協会が主催する訪問看護師養成講習会に30日間参加しました。そこで、在宅看護の難しさや最新の情報、課題について考えることができ、さらに、教員になりました。教員とはいつも実習担当で、知識のなさや教育力のなさに愕然としました。また研究を志したきっかけは、学生の関わりが母親の行動変容を促し、それを見た看護師による病棟全体のケアの変化を目の当たりにしたことです。この経験から、健康障害をもつ子どもと家族への支援を基礎から学びたいと思い、修士課程に進学しました。修士課程では、小児がん患者の母親の退院への不安について、質的研究を行いました。この研究から、母親の心理的危機からの立ち直りと、在宅生活への適応過程の問題点が明らかとなり、このような

親子を支える地域のケア体制確立に向けた研究を続けたいと思ひ、博士課程に進学しました。博士課程では、遺伝カウンセリングの研修を受ける中で、遺伝情報保護について疑問が生じました。マス・スクリーニング検査の使用済み濾紙紙の利用が議論となり、その後、厚生労働科学研究分担研究「現行マス・スクリーニングの問題解決に関する研究」に参加し、意識調査に取り組みました。この研究は、全国的なタ

ンデムマス検査の導入時に、検査時の説明厳守や血液濾紙の利用・管理方法などが決められる際の資料となりました。学際的な研究チームに参加したことで、研究者間での討議の必要性、事実を明らかにする過程がわかり、今後他職者との共同研究を続けたいと考えています。

【教育と研究】

久留米大学から福岡女子学院大学、佐賀大学医学部看護学科まで、小児看護学の教育に携わってきました。学部教育では、臨床で経験した事例を題材に講義を行い、想像力、対象把握、適切な情報選択能力の育成に努め、演習ではアクティブ・ラーニングの一つである『ジグソー学習法』を用いて、学生同士の積極的な学習を進めています。実習指導では、臨床判断のプロセスを可視化し、ケアは看護技術だけでなくと理解できるように支援しています。小児看護の専門家の人材育成として、2013年から「小児看護エキスパート研修会」、「小児看護事例検討会」を開催し、佐賀大学看護学教育研究支援センター講座に位置付けられています。

博士号取得後は、2013年から自閉症の子どもの受療環境整備に向けた研究を継続しています。その後、健康な子どもと家族を対象として、子ども達の発達や栄養、そしてもの発達や栄養、そして一生の想い出を作

と考えました。継続してプロジェクトCで共同活動を行っています。佐賀大学のCOC [Center of Community: 地(知)の拠点整備事業]内の2014年度コミュニティ・キャンパス佐賀で、「看護学生による小児アトピー性皮膚炎予防のためのスキニング教育」が採択され、地域のニーズに応えると同時に、学生の地域への理解、運営力やプレゼンテーション能力、問題解決能力、実践能力向上につながる

編集部からのお知らせ

医学部学生新聞では記事を随時募集しています。研究室での実習体験、課外活動報告、音楽・書籍評論、グルメ情報、あるいは身の回りの出来事など、なんでも結構です。旅先で撮影したお気に入りの風景写真の一枚でも歓迎です。ぜひ活字媒体にして一生の思い出を作ってください。

てみませんか。記事は電子ファイルで編集長までお送り下さい。同時に学生編集委員も募集しています。Dutyは最低限です。兼部もまったく問題ありません。医学部の歴史に名を刻もうという情熱あふれる学生さんぜひ門を叩いて下さい。(倉岡 Kurao@ccsaga-u.ac.jp)



「医療ドラマと現実の国際保健医療」

7月初旬、台湾の輔仁大学から、5名の看護学生を9日間の交換留学で受け入れる機会があった。その時の英会話の講義の中で、台湾でも「医龍 (Team Medical Dragon)」という日本の医療ドラマが人気であると聞かされた。このドラマは面白いので、私自身もよく見ていた。

主人公の朝田龍太郎は、天才的な心臓外科医という設定である。彼は、国際的な紛争地域や災害医療の現場で、NGOの医師として多くの手術をこなす。心臓外科医としての腕を磨いたという経歴を持つ。また、医師にもおとらぬ手術手技のスキルを持つ美人看護師も登場して、波乱万丈の展開で、実に面白いドラマである。

国際保健の医療現場での活動経験のある筆者の目から見ると、現実的には、国際紛争の現場や国際緊急援助活動の中で、心臓外科の手術をすることは考えられない。あるとすれば、地雷などで足を吹き飛ばされた患者の足の切断術や、救急救命のための最小限の外科手術であろう。ただし、看護師の役割に関しては、日常の医師の診療活動の補助や患者の看護にとどまらず、多くの任務が期待される。ドラマのように、ACバイパスを作るための血管の採取ではないにしても、医師に近い診療業務の一部を任されることも少なくないのが現実である。諸外国の優秀な看護師は、そのような業務を実際に行っている。

私が参加した1998年のホンジュラスでの国際緊急援助活動では、看護師によるトリアージも行われた。現在、私が指導している博士課程のN君は、南スーダンで半年間、国連平和維持活動に看護師として参加した経験を持ち、「国際的な医療援助活動における看護師の役割やその関連要因に関する研究」を行っている。

今年2名の大学院生の看護師を、フィリピンとパプア・ニューギニアの医療支援活動に、それぞれ3週間程度派遣した。彼女たちは、そのうちの1週間ほどは、アメリカ海軍の病院船Marcy (最大1千床、12の手術室を保有)に乗り組み、諸外国の医療チームと合同で医療活動を行った。まるでドラマや映画の世界のようである。

彼女たちの土産話を聞きながら、あと10年若ければ私も参加したかったと切に思う今日この頃である。

(国際保健看護学 新地浩一)

第54回 九州・山口医科学生体育大会 成績表

主管校：久留米大学

開催期間：平成27年3月17日～5月6日

バレー	男子 女子	予選 準優勝	敗退
バスケット	男子 女子	予選 優勝	敗退
卓球	男子	団体 シングルス	12位 4位
バドミントン	男子	団体戦	予選 準優勝
		団体戦 シングルス	3位
		団体戦 ダブルス	3位
剣道	男子	団体戦	予選 三回戦
	女子	個人戦	敗退
弓道	男子	団体戦	優勝
	女子	個人戦	準優勝
柔道	男子	団体戦	予選 優勝
		個人戦	優勝
準硬式野球		予選	敗退
サッカー		2回戦	敗退
硬式テニス	男子 女子	準優勝	優勝
水泳	男子	総合	12位
	女子	総合	12位
ボート	男子	総合	11位
	女子	総合	優勝
陸上	男子	総合	4位
	女子	総合	優勝
ソフトボール			7位
フットサル	男子	予選	敗退
	女子	予選	敗退



卒業生だより

医療行政の現場から

中島絵梨花さん(佐賀大学医学部・平成18年卒)

皆さん、こんにちは。福岡県粕屋保健福祉事務所(保健所)で福岡県の公衆衛生医師として勤務している中島絵梨花です。私は佐賀大学を卒業した後、北九州総合病院で研修医として勤務し、兵庫県立こども病院、埼玉県立小児医療センター、小倉医療センターで臨床経験を積んで、平成25年度から行政の分野に進みま

した。医学部卒業後の進路としては、臨床や研究の道に進む方が多いので、皆さんが行政の仕事イメージすることは難しいのではないのでしょうか。そこで今回、私が行政の道に進むまでの経緯、及び福岡県における公衆衛生医師の仕事について紹介させて頂きたいと思

います。私は初期臨床研修終了後、兵庫県立こども病院で後期研修医(専攻医)として、小児科の中の各専門科をローテーションしました。血液腫瘍科、循環器科、新生児科、アレルギー科、救急集中治療科に加え、麻酔科(小児)でも研鑽を積みました。それぞれの科で貴重な経験をさせて頂きましたが、特に強く心に残ったのが、痙攣重積や脳症に対する診療でした。小児科の救急外来では発熱、嘔吐下痢、喘息発作

などの他、痙攣・意識障害も診療頻度の高い病態です。こども病院では、痙攣や意識障害を認める児に對して、ポータブル脳波、持続脳波モニタリングを駆使してオンタイムで評価を行いました。治療に活かしつつも、特に痙攣や意識障害の初期対応は予後に直結すると考え、小児神経科の知識を深めるため、埼玉県立小児医療センターで神経科レジデントとして経験を積みました。その後は出身地の福岡県に戻り、小倉医療センターで勤務することになりました。診療の中で、私は多くの子ども達とご家族に出会いました。加療により症状や生活が改善され、元気な姿や笑顔を見る事が出来たときや、お礼の手紙を頂いたときは、主治医としての喜びを感じることができました。しかし、治療が難しい疾患や病態に對して対症療法を継続することしかできず、本人や家族にかかる大きな負担が、家庭状況の変化の一因となるような事例もありました。このような経験から、私は直接の診療のみならず、難病を抱えた子ども

やその家庭の負担を軽減できるような社会システムの構築も大切なことではないかと考えるようになりました。行政への道を選択するきっかけの一つとなりました。私のように福岡県の公衆衛生医師になった場合、県庁、保健福祉(環境)事務所、保健環境研究所のいずれかが勤務先となります。県庁では、保健・医療・介護に関する政策づくりに携わることになります。具体的には自殺対策など心の健康づくりに関すること、新型インフルエンザなどの感染症対策、がん対策、小児・周産期医療などの医療体制の構築や在宅医療の推進、地域包括ケアに関することなど多岐にわたっています。

保健福祉(環境)事務所では、より地域住民に近い立場で、感染症や食中毒対応、健康増進、精神保健等、幅広い分野における課題の解決に向けて活動します。例えば、HIV検査や結核患者の接触者健診を行い、早期に対応することで発症や感染拡大を予防します。その他、社会福祉施設の職員や住民を対象とする出前講座の依頼に応じて、感染症対策や健康づくりに関する知識の普及に努めたり、健康危機管理や

関係機関や地域の方々と連携し、調整を図りながら課題に取り組んでいくことが求められます。臨床での経験は、行政の仕事をしていく上でも役に立っていると思います。公衆衛生医師不足が問題となっている地域が多い中、福岡県では各保健所に複数の医師が配置され、毎月、定期的に集まって研修を行うなど、継続的に学ぶ体制が整備されており、他の医師に相談しやすい環境が維持されています。また、派遣制度を用いて、厚生労働省で経験を積むことも可能です。さらには、育児短時間勤務制度や子育て支援休暇など、子育てをしながらの勤務を支える制度も充実しています。産休・育児後に職場復帰し、継続してキャリアを重ねていく環境が整えられていることで、女性にとって働きやすい職場になっています。

臨床と行政を経験して、どちらにも異なった魅力ややりがい、難しさがあると感じています。医学部を卒業後、公衆衛生医師・行政への道も1つの選択肢として心に留めて頂けたら幸いです。もし、興味を持たれた方がいらつしやいましたら気軽に御問合せください。



福岡市役所での研修を終えて(前列右から3人目が筆者)

平成27年度

オープンキャンパス開催レポート

佐賀大学のオープンキャンパスが8月7日に開催され、34℃に達する猛暑にもかかわらず、鍋島キャンパスへは多くの高校生や保護者が訪れました。

医学科説明会は、サブ会場に立ち見ができるほどの盛況ぶりでした。藤本医学部長の挨拶に引き続いて、江村先生が教育概要を説明されました。医学科1年の松田大地さんが初年次の講義内容や医学科を志望する高校生への心構えを、そして6年の木村直也さんは国家試験勉強のハードさや部活の思い出を紹介しました。看護学科説明会ではカリキュラムの特色説明の後、看護学科2年の伊豆島百恵さんと4年の山崎郷花さんが学生生活の体験談と病院実習について説明し、参加者は熱心に耳を傾けていました。

妊婦体験、高齢者体験や血圧測定などの体験学習ブースでは、学生ボランティアが丁寧に指導していました。妊婦体験では、大きなメロン型のおもりを腹部につけた高校生が辛そうにベッドから起き上がる様子が印象的でした。高齢者体験では、特殊なゴーグルや足首に巻くウエイトで白内障や筋力低下を疑似体験することで、高齢者の苦勞を感じることができました。血圧測定コーナーは、10人待ちの行列ができるほど賑わっていました。

オープンキャンパスに参加して教員や学生と触れ合う中で、ますます医学科・看護学科に興味を湧いた高校生も数多くいたことでしょう。来年、このキャンパスで再会できることを心待ちにしています。(岩永・陣内)



医学部生協食堂の魅力

本年4月にリニューアルオープンした医学部食堂。お昼時には学生や教職員で大盛況である。その人気の秘密やお得情報を知るべく、代表の村上さんにお話を伺った。



ハロウィングッズ

突撃インタビュー

「一番のおすすめメニューは何でしょうか? 売り上げナンバーワン」

「そうですね…(汗)、バナナでしょうか(笑)。実は、本食堂に設置してある『一言カード』に『バナナを置いてほしい』という要望がありましたので。皆様

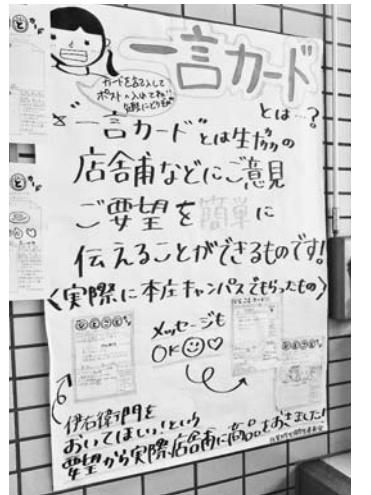


レジ付近には割引商品が並ぶことも。要チェック!



掲示板のチラシも見逃せない。小旅行や学会の際、安く泊まれる宿が見つかるかも…

「楽しいお店、わくわくするお店」です。たとえば、季節に合わせてイベントを開催するなど、皆様に楽しんでもらえるよう工夫しています。7月は、笹にたくさんの短冊を飾りました。10月はハロウィンのイベントを企画しています! 期間中仮装して来店すると何かいいことがある…かもしれません! (笑) (写真1)



一言コーナー

パンコーナー

「販売されているパンの製造元はどこですか? また、オススメは?」



食堂特製のオードブル

「お菓子の種類が豊富ですね。いつも心ときめいています(笑) 月に1回、新発売のお菓子が入荷しています。ぜひこまめにチェックして下さい。(写真3)」

「何かお得な情報はありますか?」

「佐賀-博多間のJR特急券や、佐賀駅バスセンター(写真4)で参りますので、今後ともよろしく願います。」

「お菓子の種類が豊富ですね。いつも心ときめいています(笑) 月に1回、新発売のお菓子が入荷しています。ぜひこまめにチェックして下さい。(写真3)」

「お菓子の種類が豊富ですね。いつも心ときめいています(笑) 月に1回、新発売のお菓子が入荷しています。ぜひこまめにチェックして下さい。(写真3)」



お菓子コーナー



チケット掲示板

医学教育体験実習を終えて

医学科5年 永田 穂香

昨年の9月下旬から12月にかけて、学生チューターとして2年生の骨学実習と肉眼解剖学実習に参加し、医学教育体験実習を無事に修了することができました。

体験実習の受講を希望したきっかけは、5年生の臨床実習に上がる前に、実際の人体の仕組みや構造をもう一度しっかり確認したいという気持ちがあったからでした。2年生の時に解剖学を勉強しましたが、あの頃は他の

選択コース体験記

医学教育体験実習レポート

医学科4年 友添 漢介

こんにちは。昨年度後期に、医学教育体験実習として解剖実習に参加した友添です。私にとって2回目の解剖実習、当時2年生の皆さんと共にした100余時間での所感を、今更ながら紹介させていただきます。

医学科ではPhaseIIで基礎医学系を学び、それをベースにPhaseIIIで各臨床科の講義が展開されています。臨床の講義を受ける上で、解剖学的・生理学的な理解が必要なのですが、3年前期の消化器・呼吸器を終えた頃の私は、正にココに不安を覚えていました。

そんな中、解剖学の選択コース体験記

思いを新たにしました。ただ、2年生の後輩たちは真面目に実習に取り組んでおり、とても頼もしく感じました。

3、4年生の頃はほとんどが座学でしたので、実際の人体というものに身近に感じる機会がなく、最初のうちは多少なりとも緊張していましたが、今回の経験を通じて必要以上に身構えなくてもいいのだと考えるようになりました。臨床実習に参加するに当たり、今回の体験実習を踏まえて、1人1人の患者さんに真摯に向き合っていきたいと思えます。

「?」となります。そこに必要なものは、先生と学び手の間の通訳と学問の地図ではないでしょうか。先生の講義を、学生の知識で理解できるレベルまで噛み砕いて説明する、生化学・生理学・臨床の知識と解剖学とのつながりを描きやすいように話をし、その年の近い私にできることだと思いました。このように、噛み砕いてわかりやすく説明するという能力は、畢竟わかりやすいメンテラを行うスキルであると思えます。これに加えて、解剖学の復習と臨床との関連を学ぶことができるこの選択コース、皆さんもぜひ受講してみてください。

真夏の熱戦!

西医体



漕艇部の皆さん



弓道会場にて



バドミントン会場にて

第67回 西日本医科学生総合体育大会 成績表

主管校：大阪市立大学 開催期間：平成27年8月8日～19日

参加サークル名	種目	結果	出場校数		
漕艇部	総合	3位	16校		
	男子	新人シェルフォア 魁偉 ダブルスカル 大地 シングルスカル 西村大幹			
	女子	舵手付きクォドルブル Juno 舵手付きクォドルブル 蓮華 ダブルスカル 真楓			
	卓球部	男子 団体		1回戦敗退	42校
	準硬式野球部			ベスト16	42校
	バスケットボール部	男子		2回戦敗退	44校
	女子	4位	33校		
剣道部	男子	予選敗退	44校		
	女子	予選敗退			
サッカー部		3位	43校		
バドミントン部	男子 団体	1回戦敗退	44校		
	女子 団体	ベスト8	42校		
水泳部	男子	800m 自由形	43校		
		800m リレー			
	女子	400m 自由形			
		50m 平泳ぎ			
バレー部	男子	2回戦敗退	44校		
	女子	1回戦敗退	29校		
弓道部	男子 団体	6位	35校		
	女子 団体	20位			
	男女複合	3位			
陸上競技部	男子	400m	42校		
		5000m			
		4×100m リレー			
		4×400m リレー			
		男子走幅跳			
		三段跳			
	女子	1500m		1位	
	3000m	6位			
		2位			
ラグビー部		2回戦敗退	36校		

医学部の風景④



始業を知らせるチャイムが響き渡る朝。若さとエネルギーに満ちあふれた学生さんたちが、徒歩や自転車、あるいはバイクで意気揚々と登校する。そんな姿を見るのは、私の楽しみでもある。そのような爽やかな空気の中、気になるところが一つある。駐輪場の「放置バイク」である。風雨に曝されたボディは汚れきって、金属部分はサビだらけ。タイヤの空気も抜けて

しまし、破れたシートからは雑草まで伸び出す始末。もはや持ち主の気配は微塵も感じられない。これを目にするたび、仕事前か何とも虚しい気持ちになる。

放置バイクの問題点は四つある。第一に、これは明らかに「不法投棄」である。学外で行えば立派な犯罪行為である。学内は民事不介入となり警察は動かない。このことを知ってか知らずか、まったくもって身勝手極まりない行為である。自分で処分することさえ考えず、卒業時点でポイと置いていったのかもしれない。このままだとナンバー



の登録制など、学内の規制強化につながる可能性も考えられる。迷惑を被るのは、残された職員や後輩たちなのである。



根付く所を誤った車

でもらうとのこと。それでも取りに来ない場合は、強制撤去に踏み切ることに。しかし、自転車のように簡単にはいかないのが実情であり、写真の状況が延々と続くことになる。このために費やされる労力は如何ばかりであろうか。

そして、バイク税の問題。所有者には納税通知書や督促状が送られていくはずだが、引越などして手元に届いていないかもしれない。放置バイクの税金は誰が払っているのだろうか？納税は所有者の義務である。

最後の、物に対する感謝の気持ちが無いこと。少なくとも諸君らの愛車として、雨の日も風の日も通学路やデートコースを共にした仲間ではないか。世話になった相棒へのお別れは、きちんとあげよう。その心は、やがて人を慈しむ気持ちにも変わるから。

と云う事で、心当たりがあれば役所にバイクの廃車届を出し、業者を通じてきちんと処分しよう。手続き自体は簡単である。年度内に届けを出せば、来年度のバイク税はかからない。(柴田)

最近、ずっと気になっていたことがある。ゼミで学生さんにプレゼンさせると、必ずと言ってよいほど、こう始めるのだ。「これから××について発表させていただきます」これがどうもスッキリしない。どうしてそこまで「へりくだる」のか理解できない。発表してもらいたくない」と嫌がる私に、学生さんが「そこを何とか発表させてください。お願いします！」と無理矢理頼みこんで、しぶしぶ発表の許可を出した。そういう経緯があったのなら、違和感はないだろう。しかし、

編集後記

ゼミで学生さんが発表するのは、ごくごく当たり前のことである。決して発表させてやっているわけでもない。始める時には「これから××について発表します」あるいは「発表いたします」で充分である。聞く方だってその内容に期待しているのだから、と思うのは私だけだろうか？

さて、本号は恒例の新任教授挨拶に加え、特別企画として医療行政の現場で活躍しておられる本学卒業生・中島絵梨花先生に寄稿していただいた。医学看護学の道は、実は多種多様である。在学中から見聞を広め、ぜひ自分がやりたい、あるいは自分に向いていそうな進路を一考する機会になれば幸いである。なお、人選にあたっては福岡県精神保健福祉センター長の楯林英晴先生(前・佐賀大学医学部精神神経科講師)にご助力を賜った。ここに厚く御礼申し上げたい。(倉岡)

新聞編集委員

倉岡晃夫教授(編集長)
河野 史教授、新地浩一教授、尾崎岩太准教授、柴田健太郎助手、鈴木源晟(研修医)、大野 渚、西原歩美、藤田真衣(医4)、岩永鴻之介、陣内一輝(医2)

要望などの連絡先

学生サービス課総務 gkseigkm@mail.admin.saga-u.ac.jp